

●講演「より魅力的な情報誌づくり 地域が元気になる情報誌を

～記事、デザイン、配布方法等を再検討～

南野佳代子（「ザ・よどがわ」「ザ・おおさか」編集人）

①平成20年6月18日（水）18:30～20:30 阿倍野市民学習センター

②平成20年6月19日（木）14:00～16:00 中央図書館

※両日とも同内容

（はぐくみネット情報誌とは？）

はぐくみネット情報誌は、「学校・家庭・地域」を結ぶという点で、「学校と家庭」を結んでいるPTAだより、学校だよりとは違う、他にない広報媒体。

また、私が出している「ザ・よどがわ」は区レベルのタウン誌のため、淀川区内のすべての小学校区の情報をも毎号載せるスペースはない。

小学校区という単位で、とことん地域の情報を載せられる情報誌という点も、他の媒体にはない特徴。より地域に密着しているという意味で、私にとって、とてもうらやましい情報誌。大阪市には297小学校区あるが、297通りの情報誌が存在していると思う。



（はぐくみネット情報誌にふさわしい記事とは）

はぐくみネット情報誌は、学校・家庭・地域をつなぐ情報誌。できるだけ多くの方に、自分の住む地域や、地域の子どもたちの教育に関心を持ってもらえる内容であることが大切。

↓

そのため、保護者や学校関係者、地域の子どもにも携わる活動している人だけではなく、学校や子どもとの接点のない人にも読んでもらえる情報誌 であることが重要

その工夫として…

- ・川柳、俳句など読者投稿欄を作る
- ・地域の知られざる歴史を紹介する
- ・学校や地域の催しは、報告記事だけでなく、告知・募集記事を多くする
- ・ヘルシー料理のレシピ紹介など、生活に役立つ情報コーナーをつくる
- ・病気の予防法、歯の磨き方など、家庭でできる健康法を紹介する
- ・ご自分の趣味を極めておられる地域の方に、鳥や虫の生態、クラシック音楽の知識などを紹介してもらう
- ・できるだけ多くの家に配布する（できれば全戸に配布する） など

それぞれの記事の執筆は、地域住民の方のほか、学校給食の調理員の方、校医の先生など、学校に関わる専門家の方にもお願いしてみるなど、工夫をしてみるとよい。

## (読者が読みやすいレイアウト)

読者の視線を意識することが大切

一行の文字数を長くし過ぎない → 紙の端から端まで視線を動かすのは読者にとって負担。25～30文字程度が適当。文章を2段組みするなどの工夫を。

不要な言葉を入れない → すでに読者がわかっていることは、出来るだけ省くことで、誌面を有効に活用できる。

(例：学校の名前は読者はわかっているのだから、文の冒頭以外ははずす、など)

小見出しをつける → 記事の頭に、内容が一目でわかるタイトル(小見出し)をつけることで、記事が読みやすくなる。

写真・イラストを多めに → 写真・イラストは、記事内容を補足してくれるだけでなく、読者の目を引き、読む気にさせてくれるので、できるだけ多めに入れる。

## 【レイアウトの例】

親しみの湧く  
小見出しを

写真には  
キャプションを

文章が長い場合は、  
2段組みで読みやすく

小見出しを挟む  
と一層読みやすく

※上記資料は、淀川区の新高小学校区はぐくみネット情報誌「てととと」を、校区のご了承のもとに、講師の南野さんが研修資料としてアレンジしたものです。

## (情報誌作成の心得)

私は淀川区には越してきた人間なので、地域のことは、一から勉強する必要があった。しかし、地域を知り、地域の人とつながる中で、いつも新しい発見があり、苦しいことも多かったが、とても楽しく充実した人生を送ることができている。

みなさんも、はぐくみネットの活動について、しんどいな～、などと思っておられると思う。しかし、同じやるならばできるだけ楽しんでやってほしい。情報誌づくりを通して、自分の住む地域を掘り下げる楽しみを味わいながら、続けていってほしい。